日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO.62
平成22年

案内 平成22年度全国大会

発行　日本庭園学会（会長 藤井英二郎）
〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-20-1
（有）造園会館気付
TEl(03)-3462-2850 FAX 03-3464-8465
http://wwwsoc.nii.ac.jp/asjg/

下記の要領で、平成 22 年度日本庭園学会全国大会を開催致します。研究発表・シンポジウム会場は、千葉大学松戸キャンパス園芸学部です。多くの方々の参加を期待します。

平成22年度　全国大会　プログラム

千葉大学松戸キャンパス　6.12/13

平成 22 年月 6 月 12 日（土）　公開シンポジウム
「文化財庭園の発掘と保存整備」

12：30	受　付
13：00	開　会
17：00	閉　会
18：00 ～ 20：00	懇　親　会（松戸駅東口周辺）

平成 22 年 6 月 13 日（日）　研究発表会・学会賞授与式・記念講演会

9：00	受　付
9：30	開　会　研究発表会　開　始
12：00 ～ 12：20	昼　食
12：20 ～ 12：50	平成 22 年度　総　会
13：00 ～ 14：00	平成 22 年度　日本庭園学会賞授与式並びに記念講演会（公開） 記念講演　「私と庭園」　中村昌生氏
14：00	研究発表会　再　開
16：30	閉　会

■ 会　場　千葉大学松戸キャンパス（千葉県松戸市松戸 648）
6.12　園芸学部　E 棟 2 階合同講義室
6.13　園芸学部　D 棟 1 階 112 教室

■ 会場までのアクセス　JR 松戸駅東口から徒歩約 10 分

■ 大会参加費　学会員 500 円　一般 1,000 円（資料代を含む）

■ 参加申込み先　千葉大学園芸学部　藤井　英二郎　電話 (Fax. 兼用)　047-308-8895

公開シンポジウム「文化財庭園の発掘と保存整備」

平成 22 年 6 月 12 日（土）

12:30　受付開始

13:00　開　会

13:00 ～ 13:10　開会あいさつ等

13:10 ～ 14:10　基調講演

文化財庭園の発掘と保存整備における留意事項

小野健吉（奈良文化財研究所　文化遺産部長）

真壁城跡庭園発掘状況

小田城跡庭園発掘状況

14:20 ～ 16:00　事例報告（各 25 分）

史跡樺崎寺跡　板橋稔（足利市教育委員会）

史跡永福寺跡　福田誠（鎌倉市教育委員会）

史跡小田城跡　広瀬季一郎（つくば市教育委員会）

史跡真壁城跡　宇留野主税（桜川市教育委員会）

16:10 ～ 17:00　パネルディスカッション

コーディネーター

仲隆裕 (京都造形芸術大学教授)

17:00　閉　会

樺崎寺跡園池３期の洲浜

研究発表会 全10件 概要

平成22年6月13日（日）

9：30　開会・開会あいさつ

(9：30～10：00)

1　何有荘庭園における歴史的変遷と復元的考察

加藤友規（植彌加藤造園株式会社）

何有荘は旧南禅寺境内に位置し、江戸時代の塔頭跡地に築造されている。明治38年（1905）に稲畑勝太郎の所有となり、「和楽庵」と称した。本論では、資料の収集と分析を通じて、何有荘の歴史的変遷を整理し、時代区分による庭園の特徴が明らかにした。何有荘の歴史において、『和樂園記』（大正9年5月）の時期を特に「黄金期」と位置付け、その完成度を評価した。まさに、今日の何有荘庭園の骨格となる情景が「和樂園記」に記載されていることから、『和樂園記』を詳細に分析し、復元図を作成して「黄金期」の庭園の復元的考察を試みた。その結果、「黄金期」の和楽庵と今日の何有荘との差異や特徴が明らかになった。

(10：00～10：30)

2　岩崎家4代の庭園

村岡香奈子

三菱グループ創業者である岩崎彌太郎から彌之助・久彌・小彌太に至る岩崎家4代は、庭園・建築への強い関心を有し、明治11年から昭和10年までの間に多くの庭園を造った。本研究は、これらの庭園のうち現存する11か所のデザインや使用方法の変容につき検討し、明治から昭和初期までの時代に、急速な西洋文化の導入と国民国家の形成という時代背景の中で、日本の庭園文化がどのように展開したのかを考察するものである。

(10：30～11：00)

3　医療法人式場病院の庭園の構成と特徴に関する考察

今井由江　藤井英二郎（千葉大学園芸学部）

1950年代に優れた病院環境が構成され、その概要が今日までよく維持されている医療法人式場病院において、病院創設者・式場隆三郎が意図した構成がほぼ完成したと考えられる1950年代後半の庭園構成を調査・分析し、その特徴について考察した。庭園は、式場隆三郎の構想をもとに、実弟・式場倭文夫や陶芸家・河井寛次郎とともに造成された。それは病院の庭という概念を越え、患者にとって最善な療養環境として建物と庭園が有機的に配置され、庭園にはヨーロッパの優れた医療環境のエッセンスと日本の伝統的な芸術が融合し、庭園が一般市民との触れ合いも考慮された園芸療法や作業療法の場として活用されていたことが明らかとなった。

(11：00～11：30)

4　太湖石に関する文献的考察

河原武敏

日本人が中国庭園を拝観すると、必ず見慣れない太湖石を目にし、その奇怪な姿に一驚する。美意識の相違に起因するからであろうか。筆者はこのことに疑問を感じ、長年にわたり太湖石に関する古書25冊を収集し、分析した結果、愛玩の沿革、理想とする形状、成因と種類、品格と基準、産地、採石方法、加工方法、庭園の配石など8項目を明らかにすることができた。

平成21年度関西大会　研究発表会の様子

(11：30 ～ 12：00)

5　剪定技法の違いと日本人の印象に関する研究

山崎久志

剪定技法の違いと印象の関係について調べた。対象木はチャボヒバの無剪定木、枝抜き剪定木、切り詰め剪定木、枝抜き＋切り詰め剪定木とした。被験者は 18 歳から 64 歳の男女 52 名である。結果は男女共概ね切り詰め剪定が高評価を得、枝抜き剪定は中庸、無剪定は低評価であった。また、枝抜き＋切り詰め剪定に対する評価は男性よりも女性の方が低かった。

(12：00 ～ 12：50)

昼　　食

※ 12：20 ～ 12：50　総　　会

(12：00 ～ 12：50)

学会賞授与式・記念講演

(14：00 ～ 14：30)

6　庭と庭師を主題とした絵画の研究

川島有加・牧田直子・鈴木誠（東京農業大学）

日本と西洋の著名な絵画作品のうち、庭および庭師が主題となっている作品を抽出し、絵画の構成要素をまとめ、近現代（17 世紀以降）とそれ以前に分け、それぞれの特徴を考察した。庭や庭師が主題の絵画作品は総作品数が 251 作品 (約 68,500 作品中)、総作者数が 117 人 (約 4,030 人中) 集まった。日本と西洋の絵画作品全体の絵を構成している主な要素は、木本（葉）が描かれているもの 72 作品 (73%)、草本（葉）64 作品 (65%)、建物 48 作品 (48%) であった。

(14：30 ～ 15：00)

7　庭園公開イベントの参加者による城下町の庭園の評価とその特性ー長野市松代町の「お庭拝見」におけるアンケート調査よりー」

兼井聖太、佐々木邦博、上原三知（信州大学）

長野市松代町は真田氏の城下町として発展し，現在でも町割りや町並みの多くが当時のまま残されている。特に泉水路，セギ，カワに分類される水路網や池庭が城下町全体に残されている点は，全国でも松代町にしか見られない特徴である。本研究では「お庭拝見」という個人の庭を公開する企画の参加者に対しアンケート調査を行った。アンケート調査は庭園の評価を明らかにすることを目的として行い，開催年や季節，属性による評価の差異を把握することを目的として分析を試みた。その結果，松代町の庭園は開催時期や属性に関わらず企画参加者から高く評価されており，具体的には「歴史を感じる」「風情がある」「泉水路が珍しい」という評価が多いことが明らかとなった。

(15：00 ～ 15：30)

8　龍安寺方丈庭園の作庭の意図についての過去の考察

杉尾伸太郎（ラウム計画設計株式会社）

平成 21 年度日本庭園学会の研究発表に置いて，標記庭園の作庭意図については、中国の五台山を抽象的に表現したものであり，そのモデルは醍醐寺に伝わる 13 世紀の五台山文殊菩薩騎獅像である事を明らかにした。今回は他に五台山を対象にしたもの，あるいは類似の研究事例が他にないかを検討した。その結果類似するものもないものと考察出来た。

(15：30 ～ 16：00)

9　甲州街道に残る本陣の中庭の古図と現況について

星野光男（日本庭園研究会会長）

本研究の目的は、国の重要文化財に指定されている甲州街道の本陣の星野家を対象に、中庭を嘉永六年 (1852) の家相図と現況とを比較検討したものである。

この結果、母屋などの建物は家相図どおり作られたものの、中庭は家相図どおり作られていなかったことが判明した。

(16：00 ～ 16：30)

10　朝鮮時代の教育機関・書院における保存整備の現況について

許福洙・張美娥・趙王先熙・安菊花

(国立文化財研究所自然文化財研究所)

書院は韓国の朝鮮時代 (1392 ～ 1910) に成立した私立の高等教育機関である。書院という名称は、中国・唐の玄宗の時、宮廷の書籍の編修所である麗正殿書院・集賢殿書院から由来したものである。その後、宋の朝廷が地方に造られた私塾に対し書院という名前を与えたところから学校の名称となった。韓国における書院は、朝鮮

時代の中期の 1542 年に造成した白雲洞書院をはじめ、朝鮮時代の末期には非常に多くの書院が造られた。
書院の空間構成は、学問所の講堂や著名な儒学者の祭事を行う祠廟など、大きく２つに分けられる。それらは、祠廟が講堂より高い地盤に位置することで空間に位階性をもたらしている。また、庭園には花階などを造成し、そこの植栽は宮廷や民家では見られない独特の構成をもっている。

16:30　閉会あいさつ・閉会

平成 21 年度関西大会　質疑応答の様子

アクセスマップ　千葉大学園芸学部

史跡樺崎寺跡シンポジウム

開催のお知らせ

史跡樺崎寺跡シンポジウム
－日本における浄土庭園の変遷－(仮題)

1　趣　旨

史跡樺崎寺跡は平成13年1月に国の史跡となりました。平成19年度には保存整備第1期工事が終了し、それを記念し平成20・21年度にはシンポジウムを開催、好評を得ると共に、さらなる研究の深化への期待が寄せられています。平成23年度からは浄土庭園の復原を中心とした第2期整備に着手する予定であり、市民の理解と協力を得るため、浄土庭園をテーマとしたシンポジウムを開催するものです。

2　日　時

平成22年10月10日(日)、11日(月・祝)

3　場　所

市民会館別館ホール

4．定　員

200名

5．主催等

主催：足利市教育委員会　　共催：日本庭園学会
後援：栃木県考古学会・栃木県中世考古学会

6. スケジュール

1日目　10月10日(日)

12:00　受付開始
13:00　あいさつ
13:10　樺崎寺跡と東国の浄土庭園
　　足利市教育委員会　　板橋稔・大澤伸啓
14:00　鎌倉の浄土庭園
　　鶴見大学教授　　河野真知郎
15:00　基調講演「浄土庭園の変遷」
　　京都造形芸術大学　　仲　隆裕
16:30　1日目終了

2日目　10月11日(月)

9:30　浄土庭園の始まりー宇治―
　　宇治市役所　　杉本　宏
10:10　浄土庭園の広がりー平泉―
　　平泉町　　八重樫　忠郎
11:00　浄土庭園と仏像
　　成城大学大学院　　大澤　慶子
12:00　昼　食
13:00　浄土庭園と建築
　　鶴見大学講師　　鈴木　亘
13:40　鎌倉武士と浄土信仰
　　観音寺住職　　千田　孝明
14:40　パネルディスカッション
　　司　会　　伊藤正義・藤井英二郎
　　パネラー　　講師・事例報告発表者
16:00　2日目終了・閉会

問い合わせ先　足利市教育委員会文化課
TEL:0284-20-2230
(担当：板橋)

■

報告　平成21年度日本庭園学会関西大会

平成21年12月8・9日

安楽寿院の復原庭園の見学

【見学会】

晴天下、京都産業大学教授の鈴木久男を講師に迎え、さながら遠足と思えるような行程の見学会は始まった。集合場所の近鉄竹田駅周辺は、京都市を代表する企業である京セラやワコール、等の社屋が建ち並ぶ。いわば工業地域といった景観を呈する幹線道路から少し離れると、田畑と建物が混在した鄙びた光景に転じる。そんな郊外地に、鳥羽離宮の遺跡が広い範囲で点在しているなど、講師の説明を聞くまでは、なかなか信じがたかった。

まず、西から東側に向けて、東殿跡・近衛天皇陵を経て安楽寿院（九体阿弥陀堂跡）に向かった。そこでは、かつて遺跡の発掘時に検出された石を用いた復元庭園が築かれている。また、所有者のご好意により普段は非公開の安楽寿院の庭を拝見することができた。隣接する白河天皇陵（成菩提院跡）からさらに西を歩を進め、資料を頼りに金剛心院跡から史跡鳥羽離宮跡まで全ての行程を歩き終えた。残念ながら、鳥羽離宮跡の中核部には、現在、名神高速道路とその関連施設ともに、いわゆる連れ込みホテル街が形成されている。それにより失われた遺跡庭園も少なくないが、開発に伴い、行政発掘が行われたことで、鳥羽離宮跡の遺跡庭園の様子が明らかになったと考えると、何か複雑な思いもした。

身体感覚で鳥羽離宮の広大な敷地を体験した充実感と、豊富な埋蔵文化財調査の成果に対する驚きと感謝の念で溢れた見学会であった。

今江秀史（京都市文化財保護課）

【公開シンポジウム】

８日は午後から京都市職員会館かもがわにて、公開シンポジウム「再考・浄土庭園２」が開催された。まず平安朝文学を専門とする倉田実氏による基調講演があり、その後に平泉・足利・鎌倉、鳥羽、宇治の浄土庭園について、４人のパネラーを迎えたパネルディスカッションが行われた。倉田氏は『狭衣物語』に見られる庭の描写を通して、文学の見地から浄土庭園の立地性や定義について疑問を提起した。そして倉田氏の講演を受けて４つのテーマが設けられ、昨年度の講師担当者も含め４人のパネラーから、各々の浄土庭園の特徴が述べられた。テーマの一つである立地選定には、交通の要所といった共通点も見られたが、どこまでを浄土庭園と定義するかによって、立地選定の条件に幅が見られた。また意匠と形態の議論では、今ある姿が時代の積み重ねから造られたものであることを考慮し、時代ごとの意匠・形態の違いに議論が及んだ。そして浄土庭園の再定義への展望が最後のテーマとされ、浄土庭園の前身となる平安時代以前の庭園から、再定義を行う必要性も述べられた。午前中の鳥羽離宮見学を踏まえた解説や、文学という観点からの指摘もあり、時間が足りないほどの活発な議論となった。

藤田若菜（福井県立朝倉氏遺跡資料館）

■

倉田実氏（大妻女子大学教授）による講演

報告　平成 21 年度関西研究会　第 3 回文化財庭園部会

平成 22 年 1 月 17 日（日）

3 回目となる関西研究会の文化財庭園部会では、現在、修理が継続中である「京都市指定名勝立本寺庭園」の見学会と研究会が開催された。文化財庭園部会では、引き続き実務に活かすことのできる「文化財庭園保存管理ハンドブック（仮称）」の作成を検討しており、今回の研究会では、具体的な庭園の修理を題材とした報告書の作成事例が報告された。

■修理事例見学会場：京都市指定名勝立本寺庭園
■研究会場：京都市生涯学習総合センター 京都アスニー
■テーマ　文化財庭園修理に関する報告書の作成

1．　報　告

9:30　受　付

10:00　開　会

1. 報　告

「平成 20 年度 京都市指定名勝立本寺庭園の修理について」　京都市文化財保護課　今江秀史

2．討　議

進行　京都造形芸術大学教授　仲隆裕

13:30　修理事例報告（現地見学会）　開始

解説：京都市文化財保護課　今江秀史

15:00　修理事例報告　終了

京都市指定名勝立本寺庭園・西庭（修理後）

研究会レポート

株式会社　空間文化開発機構　木下紘子

平成 22 年 1 月 17 日、第 3 回文化財庭園部会が開催され、「文化財庭園修理に関する報告書の作成」と題して、文化財庭園修理の際に作成する報告書の例や修理の事例報告、現地見学会が行われた。

本会は、まず、仲氏 (京都造形芸術大学教授) による、庭園の保存修理における材量確保の重要性、及びその事例紹介から始まった。文化財庭園において、庭園構成要素である景石や築山等は経年変化等様々な要因により欠損や形状の変化が起き、修理の内容によっては材料を補う必要があること、そして、各構成要素によって補う際の方針は異なるが、特に土については地山のものの入手が困難な場合があり、そのような場合は類似したものを選ぶ必要がある旨説明し、その対応策について事例を交えて紹介した。また、埋蔵文化財調査成果を基に復元整備する庭園においては、現存庭園と比べ、大量の材料が必要な場合が多く、対象庭園付近で行われる工事の際に処分対象となる材料を使用する例を複数紹介した。また、今後の課題として、不足する材料のリスト作成、「文化財材量保全地」の設定、ネットワーク化による情報共有の重要性を述べた。修理や復元整備における計画の段階で、コストや入手困難なことを理由にあきらめる可能性を減らすという意味で、材量の確保についての情報を共有していく必要がある事を強く感じた。

次に、今江氏 (京都市文化財保護課) より、「平成 21 年度　京都市指定名勝立本寺庭園の修理について」と題して、修理の報告と整備報告書の作成について意見が述べられた。以下、同報告を概略する。立本寺は、京都市上京区に位置する日蓮宗の本山であり、修理工事は平成

19～23年度の5ヶ年で計画されている「立本寺庭園整備保存事業」の一環である。21年度の工事は、現在、渡り廊下で二分されている庭園のうち、西庭を対象としたものである。平成19年度に検討委員会が設置され、修理の指標とする時代は作庭時である幕末とする方針とされた。主な修理としては、築山の堆積土の撤去･復旧、築山における転落石の据え直し、園路の堆積土撤去及び砂利敷による復元、高木及び地被類の植栽整備である。特に、園路については、整備前は一面苔むした平場で、園路として機能していなかったと思われるが、埋蔵文化財調査成果により礫敷面が確認され検討がなされ、砂利敷の園路を復元するに至った。また築山における転落石については設置痕を調査・確認した上で、版築工法により再構築した築山と共に修理された。

最後に行われた現地見学会では、上記のような整備報告の説明を受けたこともあり、実際の施工方法についてなどの具体的な質問も多かった。工事後、時が経過しても過去の修理内容を正確に確認するために、修理内容についての情報を共有していくこと、特に、整備報告書として記録に残すことの重要性を改めて認識することができた。

今回の見学会のように、実際の事業の途中段階で、修理の方針に始まり、工事内容、施工方法、施工後の状況に至るまで情報を提供して頂けたということは大変貴重な機会であった。今後も、多くの分野の方々の意見を取り入れ、業界全体が大きく発展していく事を心より期待している。

■

京都市指定名勝立本寺庭園の見学

見学会 アルバム

平成21年8月8日

【国登録名勝 厳華院庭園ほか】栃木県足利市

行道山浄因寺

国登録名勝 厳華院庭園

平成21年10月17日

【名勝 粉河寺、名勝 根来寺】和歌山県

名勝 根来寺

講　演　概　要

「強制収容所の日本庭園」

平成 21 年 3 月 11 日（木）

五島聖子先生（ラトガース大学 Assistant Professor）
講　演　会
2010 年 3 月 11 日 13：30 ～　千葉大学園芸学部

第二次世界大戦中、米国に移住していた日本人は米国内の強制収容所に送られ、カリフォルニア州では 1942 年から 1946 年の間に 1 万 7 千人が強制収容所で暮らしていた。強制収容所は、西部開拓時代にインディアンの移住先とされた、山の中や気候の厳しい僻地に造られた。ヨセミテとデスバレーの間に位置するマンザナール（Manzanar）は、最初に造られた大規模な収容所であり、砂漠地に近く夏は酷暑で冬は厳寒の地である。強制収容が開始された時には、樹木もない裸地に居住用のバラックが並んでいるだけであった。

収容所での生活が始まると、収容された日本人は、バラックの周辺に菜園を造り、ハーブガーデンや花壇も造っていった。収容所での食事は食堂棟の外に長蛇の列を作り順番を待つことになっていたが、炎天下での長い待ち時間に何か眺めるものが欲しいと多くの人が思ったことから、まず食堂の前に庭が造られた。米国の収容所では、菜園や庭造りのような作業を収容者に行わせ、作業の対価としてわずかではあるが賃金も支払われた。移民排斥法案により事務系の仕事には就けなかったことと造園業は時給が良かったことから、西海岸に移住していた日本人は造園業従事者が多く、収容者の中には造園業者や石工がいたため、マンザナールでは収容者の手によって敷地内に日本庭園が造られていった。

マンザナールの夏の酷暑を少しでも和らげようと、大きな池が造られ、池の周囲には石が配され、滝口も造られた。収容者の中には子供も多かったため、夏には水遊びをさせたり、子供達が池を廻って楽しめるようにと小さな回遊庭園が造られた。池には石橋が架けられ、「鶴石」らしき石組も見られる。池の上で座って涼むようにとあずまやも造られた。この池を中心とする庭園は、収容所長の名をとって「メリット公園」と名付けられた。敷地内の病院棟の前にも庭が造られた。

収容所の敷地内から大きな樹木や庭石を採集することは不可能だったので、当初は小さな石とサボテンで庭を作ったが、次第に収容所を管理する米国人が収容者に収容所からの外出を特別に許可し、重機を運転して庭園材料の収集に協力するようになった。

子供時代をマンザナールで過ごした人に当時の思い出を聞くと、「毎日お庭で遊んでピクニックのようだった、池で水遊びするのが楽しかった」という。マンザナールに収容されていた 4 年間での日本人の死者は 150 人に留まり、治安も良く保たれていた。

マンザナール強制収容所跡は米国の国立歴史史跡に認定され、2 年前から日本庭園を発掘復元するプロジェクトが開始している。大名庭園のような日本庭園ではないが、戦争中の強制収容所という極限状況の中で故郷を離れた日本人が造った日本庭園として、日本で庭園を研究する方々にもこのプロジェクトへの協力をご検討頂いた方がよいのではないかと思い、ご紹介することとした。

（写真提供：後藤聖子　概要作成：村岡香奈子）

■

マンザナールで発掘された日本庭園の石組の一つ

予告　平成 22 年度関西大会

平成 22 年 11 月 27・28 日

本年度の関西大会は、現地見学会は京都市中京区・下京区周辺、公開シンポジウムと研究発表会は、職員会館かもがわ（予定）を舞台に開催する予定となっている。

シンポジウムでは、平成 19 ～ 20 年度にかけて、関西支部で行われてきた、縄文・弥生・古墳・飛鳥時代の庭の研究成果が発表される。詳細は、次回以降の本誌にてお知らせする。

本年度は、例年より早い開催となっており、京都市内は観光客による混雑が予想されるため、参加予定の方々は、早めの宿泊の予約が望まれる。

■　日程

現地見学会

11 月 27 日（土）

公開シンポジウム・研究発表会

11 月 28 日（日）

■　会場

見学会

京都市中京区・下京区周辺

公開シンポジウム・研究発表会

職員会館かもがわ（京都市中京区）

■

会費納入のお願い

平成 21 年度の会費納入のお願いを全会員に送付しております。納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願いします。また、過年度滞納の方は併せて納入頂けますよう願います。■

表紙の写真

【上／名勝 粉河寺、下／ 名勝 根来寺（和歌山県）】

■編集後記

今号は、平成 22 年度全国大会の案内をお届けいたします。昨年度に引き続き、会場は千葉県松戸市にある千葉大学園芸学部です▼このところ、研究大会での発表が活発に行われています。今回も 10 件の発表申し込みがありました。そのため、総会を挟んで午前に 5 件、午後に 5 件の発表が行われます。庭園の歴史的研究はもちろん、利用や管理、絵画における庭園など、内容も本学会の目的にふさわしく幅広い研究対象が扱われています▼本年度の日本庭園学会賞は、長年本学会の副会長をおつとめになった中村昌生先生に授与されることになりました。中村先生には、公開記念公演をお願いいたしております。▼公開シンポジウムでは、関東地方において現在発掘調査あるいは整備事業が進行中の事例が多数紹介されます。どうぞみなさまふるってご参加のほどお願申し上げます▼平成 20.21 年度の役員・委員会は今回で任期終了です。今期は年 2 回の学会ニュース発行でしたが、次号から新体制の広報委員会による「学会ニュース」の発行となり、再び年 4 回の発行となる予定です。引き続きご愛読のほどお願い申し上げます（T.N）

■

■学会ニュースへの投稿や、本誌「学会ニュース」やホームページ作成に興味があるという方は、下記宛に郵送またはFAX にてご連絡頂けますよう、よろしく願います。

〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付
日本庭園学会　広報委員会「学会ニュース」係
FAX(075)791-9342

編集長／仲 隆裕　編集・写真・構成／今江 秀史
協　力／木下紘子・藤田若菜・村岡香奈子

日本庭園学会広報委員会
〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付
日本庭園学会関西支部事務局　FAX(075)791-9342